

令和元年度 学 校 評 価 報 告

草加市立青柳小学校

(令和2年2月6日作成)

1 学校教育目標	
あ 明るく元気な子 お 思いやりのある子 や やりとげると ぎ きたえる子	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の徹底 ・草加市「授業の5か条」の徹底 ・図書貸し出し一人平均50冊 ・家庭学習の定着（リフレット、スマイルの活用） ・体育朝会とロング昼休みの活用（体力向上） ・落ち着いた学級づくり 	成果 ○学校全体が、落ち着いた環境の中で学校生活を送っている。 課題 ●いじめ、不登校のない学校の継続 ●児童の学力向上に向けた授業改善 ●読書活動の一層の推進

4 評価表 ※評価基準 [A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等 	A	○学校経営方針に基づき全教職員が、それぞれの立場で協力して学校運営に取り組むことができた。 ●校務分掌組織の改善
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成 	A	○指導者からの指導を日々の授業に生かすことができ、授業力の向上を図ることができた。 ●幼保小中連携の改善
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用 	A	○保健計画にのっとり進めることができ、大きな事故、怪我が発生していない。 ○発育測定時に養護教諭により健康についての講話をすることができた。 ●むし歯の治療率を上げていく。
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 	A	○倫理確立委員会を通して、個人情報管理の意識がさらに高まり、個人情報に関する事故0を継続することができた。 ○修繕状態がかなり進み、安全点検で不具合がほとんど見られない。
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会、学校評議員制度の活用 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 	B	○学校だよりやHP、学校運営協議会で児童の様子や学校行事について地域に発信することができた。 ●地域との連携をさらに深め、地域と共にある学校づくりを進める。
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じた教育課程の編成 ・一貫教育推進のための組織づくり 	B	○中学校との乗り入れ授業（国語）や保育園との作品交流、交流給食などを通して、交流の促進を図ることができた。 ●中学校の行事の関係で継続できない事や打合せを行う必要がある。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じた教育課程の編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○主任を中心に各教科の学習スタイルの統一を進めることができた。 ○特別の教科道徳や外国語等新教育課程に基づき授業を進めることができた。 ●新教育課程のスムーズな実践
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修を中心に児童の学力の定着向上を目指し授業を行うことができた。 ●基礎・基本の定着に向け、今後も継続して学習活動の研修を実施していく。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○特別の教科道徳の学習について、主任を中心に研修を進めることができた。 ●評価方法、家庭との連携など今後も情報を共有し、研修を進める必要がある。
	④外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語や外国語活動の担任を主とした授業展開を行うことができた。 ●教材の利用、表現する指導と書く指導について研修を深める必要がある。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○縦割り活動を取り入れたことで、児童同士の交流を深めることができた。 ●学級活動を通して学年学級経営の充実を図る。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年とも計画に沿って、学習を進めることができた。 ●学校の特色を生かした内容の充実を図っていく。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ防止対策委員会や生徒指導委員会を通して課題を全教職員で情報を共有し、指導に当たることができた。 ●思いやりの心や言葉遣いなど積極的な生徒指導を継続していく。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○租税教室など社会への関心を高める授業を行い、キャリア教育を意識することができた。 ●中学校と連携を深め、職業に関する関心を高める学習を行う必要がある。
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○個別の支援計画をもとに課題のある児童に対して個に応じた授業を行うことができた。 ●UDの手法を生かした授業の充実を図り、自己存在感を高めていく。
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○読み聞かせや図書館司書の協力による図書館の整備により読書活動の意識が向上し、貸出冊数が増加した。 ●図書館教育の充実を図る。
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○プログラミング学習の研修を行ったことで、次年度を意識した年間計画や授業を行うことができた。 ●教職員のリテラシーの向上が今後必要である。
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○計画に沿って、各学年で人権に関する授業を実施することができた。 ●人権感覚育成プログラムを生かした授業の充実を図る。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
特色ある学校づくり	幼保小中を一貫した教育の推進	・中学校教員の乗り入れ授業 ・幼稚園、保育園との交流学習 ・3校合同研修	A	○国語を中心に乗り入れ授業を行い、児童の中学校への意識を向上することができた。 ○保育園との会食や交流を計画的に実施し児童と保育園児、教員同士の連携を深めることができた。
	読書活動・家庭学習の充実	・児童貸し出し冊数平均50冊	B	○朝読書、読み聞かせなど読書に親しむ活動を計画的に実施し、児童の読書量が増加している。 ●図書の出冊数だけではなく、児童が読む本の内容の充実を図る。
	特別支援教育の推進	・関係機関との連携、活用 ・さわやか相談日の活用	B	○巡回相談やスクールカウンセラーとの相談を活用し、児童個々の実態に応じた支援を行うようにしている。 ●児童個々の特性を生かすため特別支援教育の視点を生かした指導力の向上を図る。

<p>5 総合評価 (学校関係者評価を含む)</p> <p>○高学年で一部教科担任制を実施したため、学級の枠を超えて学年で指導をすることができた。 ○市教委委嘱の学校研究(国語)により、国語の授業で「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を行うことができ、授業力の向上を図ることができた。 ○小中の連携として、乗り入れ授業の充実、幼保小の連携行事の定着と一貫に向けた取り組みが確実に浸透してきている。 ○近隣の高校と連携し書き初め指導を行ったことにより、初めて書き初めを書く3年生も達成感のある字を書くことができた。 ○授業参観や学校公開を適切に行ったことで、保護者の98%が満足している。 ○学校だよりやHP等で児童の様子を紹介することで、学校生活の様子が分かれると答えた保護者が98%になった。</p>
<p>6 次年度の改善策</p> <p>●市の研究委嘱を受け「主体的・対話的で深い学び」の研修を通して「草加っ子の学びを支える授業の5か条」の授業実践を推進し、教職員の授業力は向上している。さらに児童の学力を向上させるため、学力向上プランの見直し、さらなる学力向上に向けた環境を整える。 ●読書活動の推進を図り、貸出冊数一人平均50冊を目標にしてきたが、今後は、冊数と合わせ、読書の仕方、内容の充実に向け、図書主任、学校司書、ボランティアと連携を図り、「学校図書館の効果的活用方法」を進めていく。 ●いじめ、不登校のない学校を目指して生徒指導、道徳、人権教育を中心として教育活動を充実させ、児童それぞれ一人ひとりが、安心して生活できる学校の組織体制を強化する。</p>